A053

日本伝統芸能狂言を事例としたICT活用によるひとり稽古支援システムに関する研究

A System Using ICT for aiding the self-practice of Japanese traditional performing art *Kyogen*

AC06 河野 浩士
指導教員 吉野 純一, 米盛 弘信, 市村 洋

1. はじめに

本研究室では, 伝統芸能の保存・振興を助力すべく, 伝統的に行われている稽古方法である口伝対面指導に着目した. 口伝対面指導とは, 師範と弟子が同一の場所・時間を共有し, 対面で口頭指導を交えながら行う稽古方法である. 口伝対面指導は, 時間的・距離的制約が大きく, 頻繁に稽古が行えない問題がある. これに対し弟子達は, 次の稽古までの間に記憶を頼りに反復練習を行っているが, この反復練習にも問題がある. それは, 記憶を頼りに行う練習は, 間違った所作・謡になってしまう可能性があり, 我流になってしまう恐れがある. そこで, 先行研究では所作・謡のそれぞれに特化した ICT 活用によるソフトウエアの提案・開発を行った. ICT を活用することで, 謡・所作をある特定の形で見直すことができる. これによって反復練習する際のサポートとして有用であることが分かっている. また, 次の二つの問題も知り得た.

① 所作・謡それぞれに特化した独立したソフトウエアは使用性が悪い
② パソコンは手軽さに欠ける

これらの問題に対して本研究では, 所作・謡の両方を対象としたスマートフォンとパソコン向けのシステム提案・開発を行った. その評価手法に SD 法と自由記述を用いた基礎評価を芸大生に実施し, その有用性を示した.

2. ひとり稽古支援システム「動画文字書き込みソフト」の提案・実装

本システムは復習練習に使用するため, 口伝・対面指導で教わった内容を正確に残し, 確認できることが重用である. そこで, 大まかな仕様は以下の 3 点とした.

- 謡・所作は動画で再生する
- 師範からの指導内容は入力エディタを通して(文字列として)表示する
- 動画と指導内容が同期して適切なタイミングで表示する

スマートフォンの実装には Android(Java)プログラミングを用いてアンドロイド端末に行った. 図 1 にアンドロイド版動画文字書き込みソフトの基本画面のユーザーインターフェースを示す. スマートフォンは画面が非常に小さいため, 必要な機能を最低限に絞り実装を行った. また, 動画と指導内容の同期は 1 秒毎に行っている.

図 1.基本画面のユーザーインターフェース

3. 評価

評価方法は, SD 法と自由記述を用いたアンケートを用いて行った. 対象者は, 桐朋学園芸術短期大学芸術家演劇専攻の学生で, 狂言の授業を履修している 30 名の男女学生である. 図 2 にスマートフォンに実装したソフトウエアの操作性・期待性に関する設問の集計結果(ICT 機器の所持別)を示す. 共に ICT の所持の有無に係わらず中間値よりも大幅に超えていることが分かる. また, ICT 機器の所持の状況によって評価値が変動していることが分かる. 特に, ICT 機器を所持していない者は操作性・期待性共に低下していることが分かる.

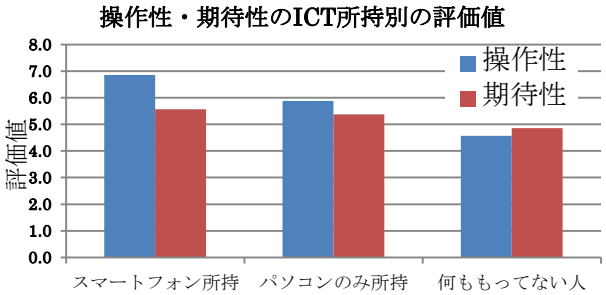

図 2. 操作性・期待性評価(ICT 機器の所持別)

4. おわりに

所作・謡を対象としたスマートフォンとパソコン向けの「動画文字書き込みソフト」の提案・実装を行い, 評価を行った. 評価結果より, 操作性・期待性について高い評価を得られた. このことから, 動画文字書き込みソフトが反復練習において有用であることが明らかとなった. 今後は, より操作しやすいユーザーインターフェースの改良やタブレット端末への移植を行っていく次第である.